

アグリ筑西

令和7年夏号

農作業中の熱中症
を予防しましょう！

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

発行

電話番号：0296(24)9206

FAX：0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

シリーズ「農業経営者に訊く」Vol.10

須藤農園 須藤 紀明さん(48歳)

(桜川市 こだまスイカ+トマト+レタス等)



須藤氏(左から3番目)と雇用就農者・実習生

施設園芸を営む須藤さんは、JA北つくばこだま西瓜部会、東部とまと選果場部会(検査委員長)、レタス部会(副部会長)、ネギ部会に所属されています。他に先がけて大規模経営を実践し、産地の発展に貢献されています。

●経営の概要について教えてください。

こだまスイカとトマトを組み合わせた施設園芸を営んでいます。令和7年は、ハウスを30a新設し、こだまスイカ200a、抑制トマト100a、レタス22a等を栽培し、販売金額は年々伸びているところです。

経営の特徴としては、就農6年目の30歳から常時雇用労力を導入し、3年前からは技能実習生の採用によって、規模拡大と販売金額アップを実現してきました。

●就農のきっかけと規模拡大の理由について教えてください。

就農は父が倒れたことがきっかけです。当時勤務していた会計事務所で接した農家の姿や父の弟であるおじさんのススめもあり、就農しました。

その後、「いつまでもおじさんに頼ってられないな」と考え、常時雇用労力を導入し、合わせて規模拡大してきました。自分にとっては「産地を守ることは自分を守ること」につながっていると思っています。

規模拡大することによって、「働きやすい職場環境を整備するためにどうしたらよいか」「効率よく作業体系を組み立てるためにどうしたらよいか」を考えるようになりました。



こだまスイカ収穫の様子
電動アシスト車を使っています。

●今後の取り組みについて教えてください。

こだまスイカの栽培面積の制限要因となっているのが、「出荷調整作業」と分析しています。今年度出荷最盛期に向けて、作業場の増築を行い、従業員教育にも取り組んでいきたいと考えています。

ゆくゆくは法人化を考えており、私も従業員も研修生も、ともに成長し続けることができる組織にしたいです。

貴重なご意見を聞かせいただきありがとうございました。これからも農業経営者として地域を牽引されることをご期待いたします。

営農情報 普通作(水稻)

【暑さに負けない米作り対策に努めましょう】

近年、水稻生育期間の高温化は、白未熟粒が多発するなど米の品質を大きく低下させる原因となっています。本県においても、令和6年産水稻うるち米の1等比率は55.4%となり（令和7年4月30日農林水産省速報値）、白未熟粒をはじめとした品質の低下が顕著となりました。本年は気象庁3か月予報で8月まで気温が高くなると予想されていることから、次のような管理等により高温対策に努めましょう。

1. 適切な栽培管理

- ①品種の組み合わせによる高温リスクの回避
- ②早めの中干しで茎数を抑制
- ③出穂後は間断かんがいで乳白粒※の発生軽減 ※白未熟粒の一種
- ④収穫開始は籾の色で判断！適期収穫で胴割米抑制
- ⑤足元から改善！堆肥の施用と深耕の実施

上記対策技術の詳細については、[茨城県HP](#)を参照してください。

2. 品種転換

「コシヒカリ(中生)」から、高温耐性品種への切りかえの検討

「一番星(早生の早)」、「ふくまる(早生の晩)」、「にじのきらめき(中生)」等



【斑点米カメムシ類防除を徹底し収量・品質を確保しましょう】

水稻を加害する斑点米カメムシ類について

2018年以降、茨城県内では水稻に減収被害をもたらすイネカメムシ(写真1)の発生が多い傾向で、2024年は県病害虫防除所の県内調査で約30%の地点で発生が確認されました(図)。イネの穂が吸汁加害されると、不稔(穂の発育停止)で減収したり(写真2)、斑点米の増加により等級低下するなどの被害が生じます。近年、イネカメムシは茨城県をはじめ全国的に増加傾向で、2024年には県西地域でもイネカメムシが要因とみられる減収が、飼料用米栽培を中心に確認されました。



写真1 イネカメムシ
体長13mm

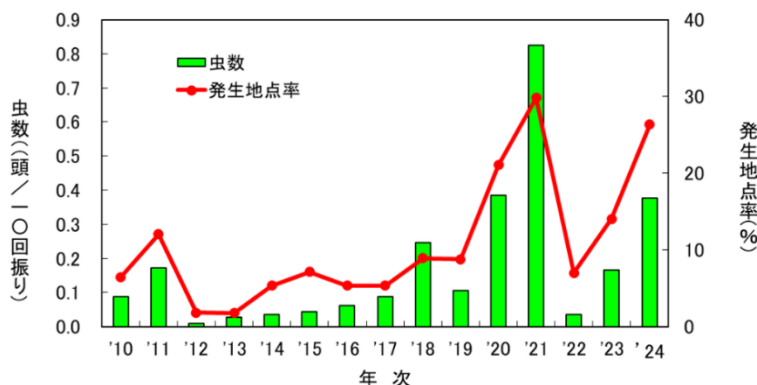


図 茨城県におけるイネカメムシの発生状況
茨城県病害虫防除所の調査データより引用、8月上旬調査



写真2 不稔で青立ちした稲

防除について

出穂が近隣の水田より早かったり遅かったりすると、出穂した穂が集中加害を受け、減収被害のリスクが高まります。不稔対策として出穂期が防除適期です。発生量が多い場合、主食用米では、斑点米対策として出穂期10~15日後(乳熟期)の防除も必要となります。水田を良く観察し、斑点米カメムシ類を確認した際には、適期に防除を行いましょう。

県ではイネカメムシを含む斑点米カメムシ類の発生量調査を行っており、茨城県病害虫防除所HPに最新の情報が公開されますので、参照してください。





コナジラミ対策を徹底しましょう

近年、管内の施設野菜ではタバココナジラミとそれが媒介するウイルス病が問題化しており、被害拡大が懸念されます。タバココナジラミは薬剤抵抗性の高さから、薬剤防除だけでは十分にウイルス感染を防ぐことは難しいため、物理的防除と組合わせた総合的な防除を心掛けましょう。

1 「入れない」対策

- ①健全苗を準備する
- ②侵入を防止する資材を利用する
(例) 紫外線カットフィルム、防虫ネット、光反射シート
- ③育苗及び本ばハウス周辺の雑草防除を徹底する

2 「増やさない」対策

- ①定植時に薬剤処理する
- ②栽培終了まで薬剤防除により、密度を低下させる

3 「出さない」(作付終了時の死滅)対策

- ①株元を切断または抜き取り、植物体を枯死させる
- ②ハウス内温度が40℃を超える期間を10日以上持続させる



タバココナジラミ



トマト黄化葉巻病



きゅうり退緑黄化病



イチゴの炭そ病に注意しましょう

イチゴ炭そ病は 発生すると被害が大きくなりやすく、産地で大きな問題となっています。高温の時期に発生し、急速に広がり、株が枯れてしまうので発症前から注意が必要です

1 伝染経路

- 一次伝染：潜在感染した親株、被害残渣を含む土壌から伝染します。
- 二次伝染：感染した株や苗から風雨や強い灌水（跳ね上がり）により伝染します。
葉かきの痕等の傷口から感染しやすく、濡れた時間が長いほど感染リスクが高まります。

2 対策

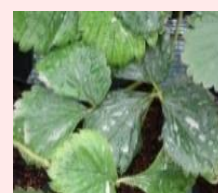
- ①伝染源となる株の排除 親株を更新する等、病原リスクの少ない親株を使用する。
- ②感染しにくい環境づくり 雨よけ栽培するとともに、育苗床の高さや通気性を確保する。
- ③予防的な薬剤散布 系統の異なる薬剤を7日間隔を目安に散布する。
- ④被害株の早期処分 被害株は伝染源となるため、すぐに抜き取り処分する。



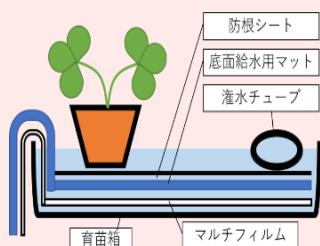
葉の病斑



しおれ症状



手灌水による濡れ



底面給水のイメージ

【底面給水について】

底面給水を導入すると感染リスクが低下します。

- ・ 苗が濡れず、土壌や水の跳ね返りが少ない。
- ・ 手灌水と比較して作業時間が短い。

営農情報 高温対策事例の紹介

サンサンファーム倉持の取組（下妻市）

サンサンファーム倉持は、第3回全国ミニトマト選手権で金賞を受賞する等、「美味しさ」にこだわった栽培を行っています。

トマトの高温障害

トマトはハウス内が連日30℃を超えるような高温期には、花数の減少、花質の貧弱化、着果不良、肥大の停滞等が起こりやすく、品質や収量の維持が難しくなります。

倉持さんのハウスでも、高温障害として軟化玉や、葉焼け、花落ち等が発生するほか、食味が低下する等の課題がありました。

そのため、高温対策として、以下の2つの取組を実施しています。

取組① 資材を活用して高温になる時期を遅らせる

50%遮光資材（小泉製麻（株）製「ピーナスホワイトNEO」）を自動開閉できるようにハウス全面に展張し、ハウス内の温度上昇を抑えています（無遮光と比較し3～5℃程度低くなり、外気温程度になる）。

その結果、5月上中旬の収穫終了が、ミニトマトでは5月中下旬まで、大玉トマトでは6月末まで延長できるようになりました。さらに労働面でも作業負担の低減が図られ、無遮光の時よりも長時間ハウス内作業ができるようになりました。収量は無遮光と比較して約10～20%向上し、障害果は約50%減りました。

取組② 暑すぎる場合は作らない選択肢を

上記の対策でも7～8月はどうしても収量や品質が低下し、特に倉持さんが重視する食味が低下します。このため、無理に作り続けることはせずに、次作の準備期間とし太陽熱土壤消毒を実施し、その間は露地でトウモロコシ等を作付けします。



遮光資材展張の様子

担い手支援の取組

筑西地域農業改良普及センターでは、関係機関と連携して地域農業の新たな担い手の確保・育成に取り組んでいます。お知り合いの方や近隣で農業をはじめてみたい方がいらっしゃいましたら、ぜひ当普及センターをご紹介ください。

①就農相談

新たな担い手の確保・育成

②就農啓発

③就農者支援

【就農相談】 就農希望者の相談対応
就農支援制度の紹介
短期農業体験研修の調整等

【就農啓発】 県内農業専門学校に対する
研修会の開催支援等

【就農者支援】 農業学園、巡回指導等

農業学園の開催

就農してから概ね1～5年目の方を対象に、技術習得と仲間づくりの場として、講座や先進事例研修などを開催しています。

※申込は、普及センター（0296-24-9219）まで

令和7年度開催計画（予定）

6月	オリエンテーション + 土づくり講座
7月	先進事例研修*（筑西管内）
8月	病害虫・農業安全使用講座
9月	先進事例研修*（坂東管内）
10月	農作業機械講座
11月	種苗会社農場見学
1月	プロジェクト発表会

*優良農業者紹介・圃場見学などを予定

お知らせ

本県における7～9月に活用可能な以下の農業技術対策が農業総合センターHPに掲載されていますので、ご活用ください。

- ・ナシの降ひょう後の技術対策について
- ・露地野菜における突風・降ひょう後の対策について
- ・高温と干ばつに対する技術対策等について
- ・肥料価格高騰に対する技術対策について
- ・台風の接近・通過による農作物等の被害防止に向けた技術対策について
- ・茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル

